

東京一極集中について考える

～オンラインで生まれる「新たな交流」の観点から～

東京大学工学部都市工学科都市計画コース3年
菊地 山下 山田
～2021.3.11 国土の長期展望に係る意見交換会～

背景

オンラインでの「新たな形の交流」

「東京」の優位性と「オンライン」の可能性

「新たな交流」は「東京一極集中」にどう影響する？

まとめ・論点

背景

「東京一極集中」の背景

- ・ 1960s～70s：高度経済成長による**三大都市圏への**人口流入。都心部の人手不足を補う。
- ・ 1980s～：人口流入が一時収まるも、バブル崩壊とともに地価暴落。**東京圏への**人口流入が進む。
- ・ 2000s～：サービス化・グローバル化の波により外国人人口の流入も増加。
- ・ 2020年：新型コロナ流行。東京では（**転出者数**） > （**転入者数**）になった時期も。
- ・ 2025年：東京都の人口がピークに。以降減少傾向に（予測）。

→東日本大震災以降、特に「**地方の女性が、大学進学や就職のために東京へ移動**」している

→新型コロナでどう変化するか？

背景

コロナ禍による変化

- ・ コロナ禍を通じて急速に**オンライン化**が進行した：「**新たな形の交流**」が生まれた
- ・ 「**豊かさの価値観**」の変化：「高い賃金」が必ずしも豊かとは限らない
- ・ 住み方の多様化：「**地方移住**」への関心の高まり
- ・ 働き方の多様化：「**テレワーク・フレックスタイム**」の導入

→必ずしも「東京にいる必要は無い」

→コロナ禍による変化は「**東京一極集中**」の是正に寄与するか？

オンラインでの「新たな形の交流」

「場所を選ばず」つながれる

今までは忙しくなかなか会えなかった人とも話せるようになった。

↔ 場所を選んだ集まりが難しくなった（cf：居酒屋vs会議室）。

例）大阪にいる高校の同級生と話し合うことが増えた

「時間を選ばず」つながれる

働き方の多様化により、勤務時間の柔軟化が進んだ。

↔ 早朝深夜でも会議可能。今までより忙しくなる人も（会議疲れ）。情報過多になる。

例）昼間の予定が合わない場合、深夜にまで話し合いが長引くことがあった（時間制限の概念も希薄になった）

オンラインでの「新たな形の交流」

「頻繁に」つながれる

オンラインの普及により、**気軽に・頻繁につながる**ことが可能になった。

⇨オンライン会議でのコミュニケーションは難しく、回数を重ねなければ意思疎通が難しい。

例) 東京にいて本業をやりながらも富山や高知の人と週1-2回のペースで話し合うことができた（半年にわたって）

「つながらない選択」ができる

煩わしい人間関係を気にしなくて良くなった。**親密な友人同士の交流が増加。**

⇨組織的な距離は大きくなってしまう。人間関係に偏りが生まれる。

例) 同じ学科の友人でも、話す人が特定の人に集中してしまう

★**新型コロナの影響で、オンラインでの「新たな交流」の形に「気づくことができた」**

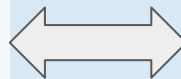
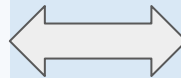
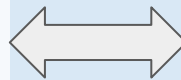
「東京」が持つ優位性と「オンライン」が持つ可能性（交流の観点から）

★ 「東京」が持つ優位性 < 「オンライン」が持つ可能性 → 「東京一極集中は抑制」

「東京」が持つ優位性 > 「オンライン」が持つ可能性 → 「東京一極集中は進行」

東京が持つ優位性

- ・ 高密ゆえ場の偶然性が生まれやすい
(人・情報が高密度で集中)
- ・ 対面会議では会話の質が高い
- ・ 対面だからこそできる「雑談」から生まれる新たなアイデアがある



オンラインが持つ可能性

- ・ つないでいる人が離れた場所にいる
(違う場であることを生かす)
- ・ オンライン会議では頻繁につながれる
- ・ 「場所を選ばず」様々な情報を効率よく得られるようになった

「新たな交流」は「東京一極集中」にどう影響する？

「場の偶然性」がより一層大切にされる

もともと東京にいる人にとって、対面のメリット（偶然性が生み出す価値）が強調される
化学反応的に「交流」が広がるまちづくりが重要になる？

東京に行ったことのない人は「本当に東京に行かないといけないか？」と思うようになる

東京に行ったことのない人は、東京の利便性を実感していない。

オンラインの良さを知ると、東京に行くメリットが希薄になる？

（一度東京で生活してしまうと利便性の高さに慣れてしまい、地方に戻りにくくなる？）

→地方部を「東京っぽく」するのではなく、地方にしかない特徴をアピールする必要がある

まとめ

- ・ 新型コロナの影響で、オンラインでの「新たな交流」の形に「気づくことができた」
- ・ 東京一極集中の是非は「東京の優位性」と「オンラインの可能性」について考える必要がある
(最終的な東京一極集中の是非は様々な観点から総合的に判断すべき)

論点

- ・ 「場の偶然性」はオンラインでは創出できないのか？ (cf: オンラインの方が気軽に参加できる)
- ・ 「オンライン空間」が「リアル空間」を代替することは果たして可能か？